

協議会ニュース 103号

愛知県自然観察指導員連絡協議会 2005. 11



● 特集「協議会25周年記念号」

・25周年によせて	中西 正P2
・あゆみ	佐藤 国彦P3
・お知らせ ～歓迎会&交流会～	P4
・案内 ～25周年記念事業～	P5
・支部からメッセージ	p6～p7
・回顧録奇稿	顧問 権田 昭一郎P8
・スタンフラーリ報告	山田 博一P9
・NACS-J 指導員講習会報告	西野 友彦P10～p11
・観察会のネタ	村瀬 由理P12
・観察会あれこれ	牧野 紀子P13
・「豊かな自然セレクション 100」	岡田 速P14
・理事会・事務局だより	P15
・編集部だより・行事予定 他	P16

25 周年によせて

愛知県自然観察指導員連絡協議会 会長 中西 正

25 年という期間は自然が変化するのに十分な時間です。私の観察では、湿原では自然状態でもその面積を半減させます。もちろん、開発などの人為が加われれば消滅してしまうでしょう。この期間になくなった湿原も多いことでしょう。この期間は、台風などの被害もかなりの程度回復させます。倉内一二先生の伊勢湾台風の追跡調査でその様子が観察されています。25 年は四半世紀です。単位が世紀で表現できるほどの期間です。この間、私たちは自然観察指導員として県下の自然紹介をしてきました。その初期には「自然観察会」そのものの説明がいました。今では普通に通じるようになっています。私たちが「自然観察会」とその言葉を広めました。

私は本年、25 周年で企画されたスタンプラリーに参加して、県下のあちこちに行きました。その結果、目的地が遠く感じる所も多く、愛知県の広さを実感しました。またいろいろのタイプの自然があり、多くの人がそれらに関わっていることを見ました。奥三河では棚田を見て、そこで採れたお米でつくったおにぎりをよばれました。知多の海岸のおもしろさと脆弱性、西三河のカキツバタの人出の多さと管理の熱意、東三河の湧水地と地形の妙に触れることができました。名古屋では都市の緑とその植生管理の大変さを感じました。参加させていただいた観察会では、解説する指導員は皆同じく、自然への愛情は深いようでした。しかし、その表現やニュアンスは微妙に異なり、人間性の多様さも感じました。

私たちは住居の近くの、行きやすい所をフィールドとすることが多いことでしょう。フィールドの自然はよく知っているために、それが自然の全てのように思ってしまうがちです。今回のように県内のあちこちを見させてもらおうと、そのことが間違っていると感じます。自然は多様です。私たちは殻に閉じこもらず、広く自然を見る必要があるのではないのでしょうか。今回、その機会を作ってくれた企画に感謝です。25 周年が終わった後も、広い目で自然を見る努力をして行きたいと思っています。

本会が 25 周年を迎えた年に、県下では大量のインタープリターが生まれそうです。中にはそれを職業にしようとしてさえしている人がいるとも聞きます。私たちは 25 年もの長い間、地域の自然を観察しており、自然を見る深さには違いがあるはずです。私たちはここを強調して、それらと差別化を図るべきではないのでしょうか。ただ私たちも井の中の蛙であってはいけません。やはり自然を広い目で見ることを忘れないようにしたいものです。そして、協議会が置かれている社会背景も考えていく必要があると思います。

25 周年を機会に謙虚で、しかし活気ある協議会にしたいものです。

愛知県自然観察指導員連絡協議会のあゆみ

報告：佐藤 国彦（名古屋支部）

愛知県自然観察指導員連絡協議会設立 25 周年にあたり、下記の通り活動経緯をまとめ報告します。

1980.10 愛知県第 1 回自然観察指導員講習会開催（於・鳳来町県民の森）

前年に（財）日本自然保護協会 工藤父母道氏が愛知県自然保護課を訪れ、講習会の共催を依頼し愛知県がそれに応えて講習会が実現する。以後、講習会は 1983 年までは毎年、それ以降は 2 年に 1 回の割合で開催されている。

1981 愛知県自然観察指導員連絡協議会設立

会長大竹 勝、事務局は愛知県自然保護課に置く。（会員約 60 名）

1982 愛知県自然観察指導員連絡協議会内に 7 支部設立。

愛知県自然観察指導員連絡協議会の支部であるとともに、ひとつの団体としても活動できるととされた。各支部は以下の通り。

名古屋東・名古屋西・尾張・知多・西三河・東三河・奥三河

1982.8 機関誌「協議会ニュース」創刊号発行。2 号までは手書きの機関紙であった。

（2005.11 現在 通算 103 号）

1983 愛知県からの受託観察会開始。

「自然観察指導基本方針」の制定（6/26 総会で可決）。我々がどのような考えで自然観察指導にのぞむかを定めた方針を制定。

1985 規約を全面改定し、事務局体制を整える。（4/1 施行）企画運営委員会・調査委員会・編集委員会を置いて事業を行うこととなる。

愛知県からの受託「自然観察の手引き」作成開始。（1985～1988 年）

機関紙の印刷を 12 号から外注とする。

1988 ブナ科樹木分布調査開始。1 km メッシュの大きかりな調査で主として数年間実施し、報告書は 2005 年発行。

1989 愛知県より冊子「四季の自然観察」の作成受託開始。1989 年より 1995 年に春・夏・秋・冬を作成

1991.9 設立 10 周年記念事業開催。於名古屋市観光会館。①講演会「子どもと身近な自然」河合雅雄氏
②ミニ討論会③スケッチコンクール④展示⑤懇親会

1993 愛知県から冊子「自然観察ガイド」の作成受託開始。（1993 年～1995 年）

1995 1995 年前後より定例観察会が順次増加し、定着化する。

（財）東海財団からの受託「中部の湿原」作成。

1996 愛知県から冊子「観察の手引き」の作成受託開始。（1996 年～1998 年）

1997 （財）東海財団からの受託「中部の山々」No.1 を作成。No.2 は 2002 年作成。

1998 事務所所在地の変更。（会の事務局は設立以来愛知県庁に置いていたが、県の意向により以後事務局長宅を所在地とする。

2000.10 設立 20 周年記念事業（於・愛知県産業貿易会館）「自然の楽しさを 自然の大切さを みんなに」をテーマに事業展開。①講演会「身近な自然を新たな視点で」高木典夫氏②分科会「私の自然観察」「学校教育で」「自然保護」「環境教育」③観察会スタンプラリー④懇親会
以後、各支部で 20 周年記念事業開催。

2004.3 規約改正をし、組織調整を行う。（3/22 施行）

2005.10 愛知県第 15 回自然観察指導員講習会（於・岡崎市桑谷山荘）

2005.11 設立 25 周年記念事業（於・なごやボランティア・NPO センター）①講演会「自然のなかの危険とどう向き合い、つきあうか」②パネルディスカッション③展示④スタンプラリー⑤懇親会

◆ 現在の組織 ・会長 中西 正

・会員数約 380 名

・県内各地に名古屋・知多・尾張・東三河・西三河・奥三河の 6 支部

お知らせ

歓迎会 & 交流会

～ ようこそ！ 愛知県自然観察指導員連絡協議会に ～

愛知県自然観察指導員連絡協議会にこの秋、44 名の新規加入がありました。本年 10 月に愛知県岡崎市で行われた指導員講習会を受講後、(財)日本自然保護協会に指導員登録をされたフレッシュな面々です。

歓迎会を下記の通り企画しましたので、新人のみなさん、また旧人(?)のみなさん、ぜひお誘いの上、参加ください。

当日は「私が大切にしている自然のもの」をテーマに、なにか一品持参していただき、思い出あるいは自然に対する想いを語りあひながらの交流を予定しています。和やかに、ざっくばらんに話し合ひましょう。木の実・鳥の羽・漂着物などあなたの“とっておきのもの”を紹介ください。誰が何を持参するか……。その視点の相違もおもしろいでしょう。どうぞ、お楽しみに！

♪ 日 時 11 月 23 日 (水・休) 10:30～12:00

♪ 場 所 なごやボランティア・NPOセンター 第1研修室
地下鉄「伏見」下車 6 番出口より南へ徒歩 6 分
名古屋市中区栄 1-23-13 TEL(052)222-5781

♪ 持ち物 ①自然のものを何かひとつ (ある方のみで結構です)
②名札 (NCS-J または手作りのもの)
③マイカップ
④午後の 25 周年記念事業の講演会に参加される方は、
軽食・飲み物の持参をどうぞ。

Here we go!



愛知県自然観察指導員連絡協議会

創立25周年記念事業

みつめ つたえて25
みつめ つたえて25



アウトドアの安全講座

入場無料

11月23日(水・祝) 午後1時～4時30分

なごやボランティア・NPOセンター（伏見ライフプラザ 12 階）

名古屋市中区栄1-23-13（地下鉄 伏見駅 6 番出口南へ徒歩 6 分）

1部 基調講演「自然のなかの危険と どう向き合い つきあうか」

（財）日本自然保護協会 顧問 柴田 敏 隆 氏

◆プロフィール◆ 1929 年神奈川県横須賀市生まれ。横須賀市博物館学芸員、山階鳥類研究所資料室長などを経て、現在（財）日本自然保護協会 顧問。日本のコンサーベーションの草分けとして、自然保護、環境保全、野生動物の保護、子どもの自然体験の指導、自然観察指導員の養成、自然保護・環境教育の指導などに携わる。環境庁長官表彰はじめ多くの賞を受賞。『カラスの早起き、スズメの寝坊』（新潮社）、『わんぱく原っぱ自然とあ・そ・ぼ』（小学館）など著書多数。

2部 パネルディスカッション

「あなたならどうする？ 野外の危険と安全」

スズメバチに遭遇してしまったら・・・、もし毒性の植物を誤って口にしてしまったら・・・。
あつてはならない「もし」がおきてしまったとき、何をどのようにするのか。
またそれらを未然に防ぐには、どのようなことに注意すればよいでしょう。
事例に学びながら、対処法・リスク回避法を一緒に考えてみましょう。

主 催 愛知県自然観察指導員連絡協議会

後 援 （財）日本自然保護協会

愛知県

名古屋市

久しぶりに他支部の観察会に参加して

尾張支部長

山田博一

私が指導員になりたての 1990 年に初めて他支部の観察会に参加しました。その時、東三河や知多の素晴らしい自然だけでなく、その支部の指導員の暖かい人情にも引かれ、いつしか会の活動のお手伝いをするようになりました。あれから 15 年経ってスタンプラリーという行事で、再び他支部の観察会に参加してみると、若い人の育っている支部・手伝いスタッフの増えた支部、社会的に認められてきた支部など数多くの支部が、人と共に成長して充実していました。その一方で、社会的に認知されたゆえに責任が重くなり、自分の活動に手一杯で、他支部の活動に目を向け、参加するゆとりがなくなってきました。25 周年を一つのきっかけにして、自然だけでなく指導員同士の互いの活動を知り、交流を進め、旧交を深めるのも必要だと思います。

県協議会設立 25 周年を迎えて

名古屋支部長

滝田久憲

私が指導員になって協議会に入会した 10 年前と、今では明らかに協議会の役割は変わってきました。その頃は支部も含めて会員のスキルアップの機会が多々ありました。そこで育った会員は、社会の要請もあり、支部や地域での活動、行政との協働事業などで活躍するようになりました。愛知県には、幸いにも海、山、川、里やまなどの多種多様な自然とそこで暮らす人々のくらしがあります。後世に残すべきものが多々あります。また、協議会には各地で様々な活動を行っている仲間も多くいます。こうした自然や人に関わる情報をしっかり把握し、ネットワークを作るのがこれからの協議会の役割だと考えます。但し、会員一人ひとりが機会を捉えて、様々な自然や人々と接することの意味は今も変わっていません。

25 周年を振り返って

知多支部長

降幡光宏

会の基本理念は①自然に親しみ②自然に学び③自然を守るの三誓文(五誓文には足りない)以上を具現化するために自然観察会を実施することであると理解をしています。

***みなさんは、どれにあてはまりますか。**

- ① 味が有るので自然観察会を主体的にやっている人。
- ② 興味が有るが①ほど気がなく割り当てされればやっている人。
- ③ ①②それほど気がないから社交として忘れない程度に出る人
- ④ 興味が有り意見を言うが会の自然観察会に協力しない人。
- ⑤ 参加せず、他の会で同じような自然観察会を実施している人。
- ⑥ 参加せず、他の団体に参加し、情報取得や付き合いで加入している人。
- ⑦ 興味があり講習を受け、その内こと思いつながら参加しない人。
- ⑧ 興味があり講習を受けたが、気が乗らずに参加しない人。

***でも、でも続けるのは**

- ① お金が無くて遊べるから。
- ② 技術革新がないから。
- ③ 他に能が無いから。
- ④ 入る知識より忘れるのが多くなったが最後は自然が好きだから

***振り返って**

- ① 25 年の積み重ねは、自然に関する知識が
わずかに向上したかな。
- ② 自然の仕組みが少し分かったかな。
- ③ 自然関係の人間のつながりが出来たかな。

25 周年からの展望

奥三河支部長 村上和彦

おめでとうございます。意見！まず協議会の役員の決定の仕方を、全員の投票で行い、選挙管理委員会を設けて立候補制とし、郵送の投票が良いと思います。選管より立候補者の立候補原稿を投票用紙とともに会員へ郵送し、折り返し投票を返送してもらう。費用はかかりますが、役員選出は、根本ですからやるべきだと思います。

人材は豊富ですから、良い結果になると思います。けっして今の役員の方達が良くないといっているのではありません。決定方法の改善を提案しているものです。

なぜならば、私の見るところ、どうしても一部の人間の集まりで、個々の支部長はそれを否定する材料にされている感がいねないからです。

協議会 25 周年によせて

東三河支部長 梶野 保光

愛知県自然観察指導員連絡協議会創立 25 周年、おめでとうございます。私たち東三河支部（NPO 法人東三河自然観察会）も来年、四半世紀の節目を迎えます。

愛知県東部をフィールドとする、私たちですが、山岳、里山、一級河川、外海、湾と恵まれた自然環境を十分活かした活動を進めていきたいと考えていますので、皆様のご指導をお願いいたします。



写真は、今年人気のプログラム「どんぐり工房」(左)と「アサギマダラのマーキング」(右)

支部活動がんばります

西三河支部長 三田 孝

協議会創立 25 周年、おめでとうございます。西三河支部は少し遅れて 1982 年に「西三河の自然を知る会」として発足しました。当初は幡豆海岸、愛知こどもの国、矢作川、小堤西池、真福寺、六所山、飯盛山など西三河全域で観察会が行われていました。活動が低調な時期もありましたが 2004 年に「西三河自然観察会」と改名し組織の刷新をはかりました。支部主催観察会を活動の柱とし、会員が主催する定例観察会や、会員研修会なども行っています。会員数は約 50 人ですが、実働している会員は十数人です。より多くの会員さんが活躍できるよう活動に工夫をこらす必要を感じています。協議会を通して他支部の活動に学びながら、支部活動を盛り上げていきたいと思っています。

更なる期待をこめて[ロートル懐古録]

顧問 権田昭一郎

私が、当時の「愛知県自然観察指導員講習会」に係わらせて頂いたのは、昭和55年10月に愛知県農地林務部自然保護課と日本自然保護協会共催の形で、鳳来町の「愛知県民の森」を会場として1泊2日の日程で行なわれた本県第一回講習会でした。

講習会は、アウトドアの野外研修はわれわれ県側が、インドアの座学は夕食後保護協会の講師の皆さんが分担して進められ、県側のスタッフは、小生の他、現在連絡協議会顧問の安藤尚、原田猪津夫、池田芳雄の各氏で、立案計画・推進一切を仕切られたのは本会の生みの親で、当時自然保護課で担当主任の佐藤国彦氏でした。

第一回の受講者の皆さんは40人余で、どなたもがそれぞれの地元の代表的リーダーの方々に、今も名簿の中に何人かのお名前を懐かしく拝見しています。

アウトドアのスタイルについては、事前に何回となく佐藤氏との打合せを重ね、かなり綿密な実施メニューを準備して本番に臨みました。そのスタイルはオリエンテーリングに似て、つまり、われわれ4人がそれぞれ研修テーマに即した素材の多いポイントに待機し、受講者が4組に別れて、時差別に逐次ポイントを巡回し、各ポイントで所定の課題をクリアしては次へ進むようにしました。皆さんが真摯な姿勢で取り組んで頂いたこと、夜の座学も、講師との質疑応答が遅くまで続けられたことをよく覚えています。

その後、第二回の講習会は昭和56年に犬山、第三回は昭和57年に鳳来町のやまびこの丘学童農園、第四回は翌58年、設楽町県民いこいの村と毎年連続して開催され、指導員の登録者の皆さんが県内全域で自然環境保全活動のパイオニアとして、更にはそれぞれの立場から地域のリーダーとして活躍される端緒となった現実を懐かしくも誇らしく思っています。

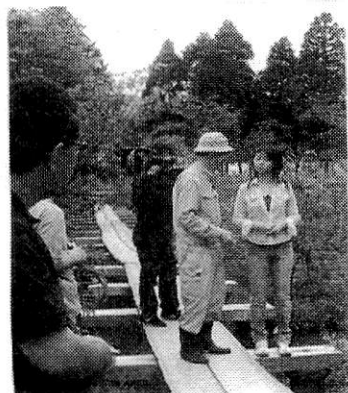
後日、私は愛知万博会場開発予定地、豊橋・渥美表浜のリゾート開発予定地、当時各地でブームをもたらしたゴルフ場開発予定地などを始め、県内外の環境アセスメントに東奔西走の時期がありましたが、有り難いことに、行く先々に講習会での顔馴染みの皆さんがお見えになり、環境調査はもとより、社会的にも地元の親分としての人望の篤い方々ばかりで、大変なお助けを頂いた当時のあれこれを今もよく覚えています。

隔月にお送り頂ける「協議会ニュース」から、中西会長を始め、役員会員各位、並びに歴代の役員皆様方の不断のご研鑽ご努力で、年々発展充実を続けられる協議会の様子を伺いご同慶にたえません。

会員数ひとつを見ても、平成9年のピーク時には451名を数えるなど、発足当初を思えば正に隔世の感があり、また、牧野紀子さんの「名前で行こうか？ それとも？」「嗅覚で識ること」などからも、皆さんが地道な活動を続けられている様子に接し、一人ほくそ笑んだりしています。

私が経験的に思う指導者の必須条件は、不断の自己研鑽をベースの顔として、それに「この分野・この地域のことなら」と言う「オンリーワン目玉」と片方には「この人なら」と言う「信頼・魅力目玉」の両眼を配し、全面に「和して動ぜず」の面構えとが三位一体になって整うもののように思われますが、如何がでしょうか。

今、学校教育の現場では、総合的学習時間への対応に四苦八苦していますし、愛・地球博の延長線上などにも、各所で斯道の優れた指導者が求められています。量・質ともに比類のないわがメンバーの任や重しと言わざるを得ません。世に「自然云々」と名乗る趣味のグループは到る所に見受けられますが、自ら「指導者」を標榜する会は見当たりません。その自負こそがわが会の活力源だと思っています。そこで私は、禅語の一節「百尺竿頭一步を進める」を会の座右に置かれることを提言し、更なる積極的ご活躍を期待して止みません。



6月17日・作手「向山湿原」にて収録

スタンプラリーを終えて

報告：観察会担当 山田 博一（尾張支部）

1. はじめに

まず、それぞれの観察会で長い間がんばってこられた方に敬意を表したいと思います。中には、本業に負けないうらい入れ込んでいる人もおられるのに驚かされました。

2. 経過

スタンプラリーの初日の蒲池漁港観察会では、地元の知多支部の多数の指導員と会長の中西さん、名古屋の滝田さんと顔を合わせて気合いの入ったスタートとなった。しかし、2回目の小堤西池、4回目の菟足神社、5回目の定光寺では、地元の指導員は多いが他支部の指導員が少なく、目的の一つである支部間交流はうまくいっていないことがわかった。中間報告で再度呼びかけたが、東山公園、富具崎港や猪高緑地でも同様にスタンプラリーの係と中西会長や滝田さん吉田さんばかりが顔を合わせる事態になってしまった。

	日時	場所	他支部	地元支部	一般大人	一般子供	合計
第1回	5月 8日（日）	蒲池（知多）	3	15	6	8	32
第2回	5月14日（土）	小堤西池（西三河）	4	7	4	0	15
第3回	5月28日（土）	善師野（尾張）	2	8	29	0	39
第4回	6月 5日（日）	菟足神社（東三河）	4	24	37	0	65
第5回	6月11日（土）	定光寺（尾張）	1	8	3	6	18
第6回	7月16日（土）	千枚田（奥三河）	4	10	7	14	35
第7回	7月17日（日）	東山公園（名古屋）	1	5	23	19	48
第8回	7月24日（日）	富具崎海岸（知多）	2	8	4	5	19
第9回	8月21日（日）	美浜町山王川（知多）	0	7	2	1	10
第10回	10月 1日（日）	猪高緑地（名古屋）	3	6	3	0	12
合計			24	98	118	53	293

3. 反省点

①集合場所を指示していながらそこに誰も行かないのは、会の内部にとどまらず、社会的責任の放棄となるので、細心の注意が必要である。また、集合場所は、知っている人と他の場所から初めてやってくる者とは、ずいぶんとらえ方が違うので、公共交通機関の駅にするべきである。

②指導員で自分のフィールドを持っている人は、県などの環境調査にかり出されたり、自分観察会の下見、本番などで貴重な休日をつぶし、それにプラスαで参加するゆとりがなくなっている。さらに、決められた10ヶ所の観察会の場所を、わずか5ヶ月で回るのは現実的に厳しい。私も、修学旅行の引率や部活動の試合などでどうしても参加できず、相当無理をして7スタンプにとどまり完投賞には手が届かなかった。

今後、スタンプラリーをやる場合、限定期間・限定場所にせず、1年間に他支部の観察会に参加するだけでスタンプをもらえるようにするのも一つの方法だと思われる。

4. 最後に

今回は、行事のバッティングや準備不足で成功しなかったが、スタンプラリーのような全県的な支部間交流を、毎年定例化して、現実的な回数で、現地の観察会に参加して、情報の共有を図るのも、愛知県自然観察指導員連絡協議会をまとめる一つの方法だと考えられる。

指導員講習会レポート

自然観察指導員講習会を実施しました。

報告：尾張支部 西野 友彦

平成 17 年 10 月 8 日（土）から 10 月 10 日（月）に、岡崎市営国民宿舎桑谷山荘及びその周辺のフィールドにおいて、自然観察指導員の養成を目的とした第 374 回 NACS-J 自然観察指導員講習会を（財）日本自然保護協会と愛知県が共催し、愛知県自然観察指導員連絡協議会はこれに協力しました。



■小野木三郎参与による講義



■伏見勝講師による講義

1 日目の野外実習では、スケッチを使用し、森を遠くから見たり、近づいたり、森の中に入って見たり感じたりしたことを通して自然のしくみやつながりなどを学びました。

2 日目の野外実習では、樹冠投影図、階層構造断面図を作成し、森の植物の現状を把握し、過去の状況を知り、将来の森の状況を予測することや地形・地質、又昆虫などの観察を通じてこの地域の自然環境の特徴について理解を深めました。

また、NACS-J の 3 名の講師により、五感を使うゲーム、自然のしくみ・つながりなどに注目した自然観察のテーマ探しについて説明がありました。

3 日目は、各受講者が自然観察指導員になったつもりで自然観察会のテーマを探し、その後、全員が自然観察指導員のリーダーとなって、5 分間のミニ観察会を実施しました。



■志村講師による野外実習

1 日目の講義では、NACS-J の小野木三郎参与から駄洒落を交えた自然観察会のねらいや意義について、2 日目は伏見勝講師による自然観察会を通じて自然保護が図られた事例や自然観察会の準備・手順など観察会の適切な進め方について講義が行われました。

今回の自然観察指導員講習会で、受講された 60 名の方全員が新しく自然観察指導員に登録されました。



■最終日 野外指導実習の様子

愛知県自然観察指導員連絡協議会に加入のみなさんをご紹介します。

活躍に期待します！ どうぞよろしくお願いします。

■（ ）内は、所属支部



天野節子（西）	伊藤光宏（尾）	井上智香子（東）	宇都宮真輔（尾）
梅村幹雄（尾）	大嶋洋平（知）	刑部博（名）	加藤修司（西）
加藤哲夫（西）	鬼頭保（名）	紀藤昌仁（尾）	鬼頭洋子（名）
木村真一郎（尾）	倉地智晴（西）	黒江隆太（知）	坂井田良男（名）
櫻井玲子（名）	白石雅彦（尾）	杉本利幸（名）	田中美保子（名）
富安卓也（東）	中島国輔（東）	永田孝（知）	名倉正志（西）
西野友彦（尾）	長谷川とし子（名）	長谷川紀男（名）	久田直美（名）
平松裕規（知）	船木麗子（名・西）	堀田信二（西）	牧本直喜（東）
柵木宗孝（西）	松尾隆志（東）	松尾由佳（西）	松山太（西）
的場紀子（名）	水谷宗保（西）	三輪宣勝（尾）	森須美子（尾）
森田邦久（奥）	吉国知子（西）	吉田孝三（知）	米澤勝之（名）

食 べ る 誘 惑 、 創 る 魅 力 (Ⅱ)

知多支部 村瀬由理

私は観察会に行くときには、必ず籠を持って行きます。そこにはテーマにちなんだ図鑑を入れたり、楽しいおやつを入れていきますが、そのうちに拾い道楽の私の籠には自然からの贈り物が増えて重くなっていきます。それは、木の実であったり落ち葉であったりしますが、自然を壊さないようにと気をつけて、「ちょっとだけね」と言いつつ、いただいています。

何でも束ねて丸めて

いつの頃からでしょうか、つる植物を見るとつい手がでてしまい、くるくると巻いてリースを作ってしまう。誰に教えていただいたのか、本で見たのかなどははっきりした記憶もないのですが、手が勝手に動いてしまいます。

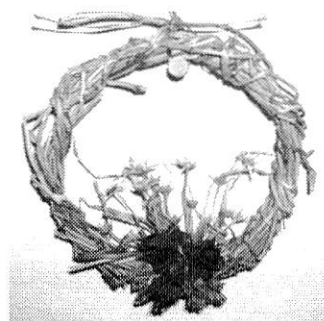
蔓細工と言えば「アケビ」。「アケビ」にあこがれる気持ちもありますが、なかなか見つけにくく取ってしまうことにも躊躇してしまいますし、生のままだとぺきぺきと折れてしまうので、さっとリースを作るには少々難ありです。

ではどんな素材がいいかいうと、一番手頃な物は、「クズ」の蔓でしょう。放置された土手や荒れた土地によく生えています。根茎が残っていれば、来年もどんどん伸びるので、気遣いは少なくてすみすね。次に扱いやすく比較的手に入りやすい物は「アオツツラフジ」と「ヘクソカヅラ」でしょう。「アオツツラフジ」は実は毒があるので要注意ですが、種子がおもしろい形をしていて「アンモナイトが出てくるよ」と子どもたちにも好評です。「ヘクソカヅラ」は蔓とはいえ、あのおいしに残っているの、苦手な方には、鼻つまみものです。でも、オレンジ色の実を付けたままリースにしてしまうのもステキです。

何でも結んで並べて

いろいろな木の枝も拾ってみましょう。台風や大風の吹いた次の日の公園や海岸に出かけていくと、手頃な枝や流木が落ちています。気に入った形の枝をいくつか拾い、用意しておいた麻ひもで「こも」を作るように縛ってみましょう。壁掛けサイズからコースターサイズまでお好みの大きさで自由に作りましょう。そこへ今までに拾い集めたもの、海岸で拾った夏の思い出の貝殻たち、秋の野の山で見つけた不思議な形の木の実たちなどを並べておいてみましょう。自然の中で見つけてきた宝物たちの個性あふれる顔がみえます。

- 素材：ヤブガラシ（リース土台） ナツツバキの花殻（下部中央の黒）・イヌノハナヒゲ（中央の花）・クロベの球果（右下）



何でもくっつけて

蔓をリースに、枝を壁掛けにと変身させるときに必要なアイテムとして、用意するものは「接着剤」です。今までの経験から、安価になった「ホットボンド」もしくは「グルーガン」が手に入りやすく使いやすいでしょう。ただし、電源が必要なことと、接着剤が出るところと接着剤が高温になるのでやけどに注意することを忘れずに。（最近は低温の「ホットボンド」も登場しています）また、ちょっとしたショックに弱く、せっかくくっつけたものを自宅まで運ぶ間に壊れてしまうことも、ままあります。その他いろいろな接着剤がありますので、各種使い比べてみてください。まだまだ、自然からの贈り物を楽しむアイデアはいろいろあります。興味のある方は知多自然観察会の10月以降の「工作」の文字のあるテーマの観察会にぜひお出かけ下さい。

このリース達の行く末は・・・

作品が完成したら、思いつくままに飾ってみましょう。お家の中に自然の宝物の心地よいなごみ感を味わうことができると思います。多少埃がかかってしまったリース達は、お庭に飾るのも良いでしょう。思い切ってシルバーのスプレーをしてみると、また違った雰囲気になり、クリスマスにぴったりです。自分なりの楽しみ方を工夫してみてください。

地域の自然を通して

東三河支部 牧野 紀子

実のところ、私は、指導員の講習を受けたのは10年前ですが、ここしばらく育児などの都合で指導員としての活動は休止にならざるを得ない状況が続いていました。ようやく東三河と尾張（2支部所属）の定例自然観察会を通して徐々に活動を再開しつつあるといった所でしょうか？

実家のある尾張と、今の住まいのある東三河とでは、そこの自然環境にも違いが見られて興味深いところですが、指導員としてではありませんが、自宅の植田町を散歩がてら回することで、身近な自然について改めて気付かされたり、考えさせられたりすることが出来ました。ここでの観察もそれなりの年数になるので、一度何かのまとめなど、形にできると良いな、と考えています。

自然界の生きものについて良く識り、その付き合い方、関わりを学ぶためには、遠くの自然へ出かけるよりも、自分の住む地域の自然についてじっくり歩き回って観察することが大事なことはないか、という気がしています。勿論、地域の異なる場所に出かける楽しさ、違いを識ることも意義があることだとは思いますが、それでも、継続して見続け、生きものにどんなことが起こっているのか、今置かれている自然の状況とはどんなものかを学ぶことができるのは、やはり自らの地域の環境が一番ではないでしょうか？

かつては植田町も、今よりもずっと豊かな自然が観られたことと思います。植田のみではなく、豊橋の昔の話しからは、今となってはすっかり希少となってしまったシラタマホシクサや、ナガバノイシモチソウが、極普通に子どもの草遊びの材料として使われるほど身近であったことが伺えたと、9月に豊橋自然史博物館で行われた自然史講座で、学芸員の藤原さんよりお聴きすることが出来ました。

今住む地域の自然をどう残していくことができるのだろうか？何を識ることが大事なのだろうか？考えれば考えるほど色々課題のあるパズルみたいですが、どこまで私は出来るのでしょうか？

地域の自然を考えていくことから本当の自然保護が生まれてくるのでしょうか。

各観察会の場で、訪れた人が地域の自然について識り、大切にしたいという気持ちが育つことを願っています。そして自分はそのお手伝いが出来ると良いな、と考えています。

拙い文章でどこまで伝わったのか解らないのですが、協議会ニュースに投稿する機会を与えて頂き有り難うございました。次の方の投稿を楽しみにしております。協議会のさらなる発展を願いつつ、わたし自身も自然についての研鑽を摘んでいくことが出来ればと思っています。

牧野紀子さん、1年間連載ありがとうございました。次回 104 号（新年号）より、新たな会員による連載がスタート予定です。お楽しみに。

貴重な鉱物を産した青鳥山

西三河支部 岡田 速

所在地 幡豆郡吉良町大字小山田

京都の東山をうたった句に「・・・寝たる姿や東山」とあるが、青鳥山はその姿が実に良く似ているように思える。

この山は地元では「青峯山」と呼んでいる。それは1987年、山上に寺院が建てられ、三重県志摩の青峯山より御分身を勧請し青峯山大善寺と名付けられたが、1921年大火に遇い南山麓に移転した。今でも土地の人はこの山を「あおみねさん」と呼んでいる。



京都の東山連山に似た青鳥山

青鳥山は標高100m足らずのなだらかな山であるが、地学的には有名である。この山の南半分は斑レイ岩、北は傾家変成岩からなりその接触面には珍しい鉱物が見られる。

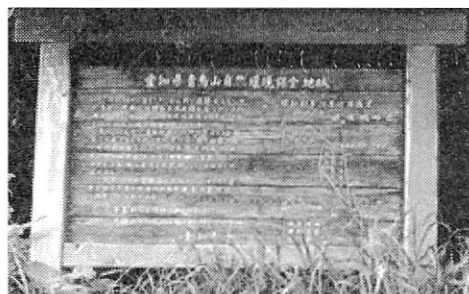
明治の頃にかかれた「三河國鉱物産地案内」石川盛章著に青鳥山の鉱物について書かれている。これは「保定村より幡豆村に至る道を行くこと数丁にして南方に小丘あり、俗に青鳥山と称す。ここは主に斑レイ岩よりなり、所々に石英脈、ペグマタイト脈あり、緑柱石・石榴石・電気石・白雲母・磁鉄鉱・青雲母・石綿等産出する・・・」とある。また、愛知県西尾市・幡豆郡鉱物日誌（1958年岡本要八郎著）によると、青鳥山から磁鉄鉱・褐

気石・白雲母・石綿・コルンブ石・モナズ石等の貴重な鉱物の産出が記録されている。

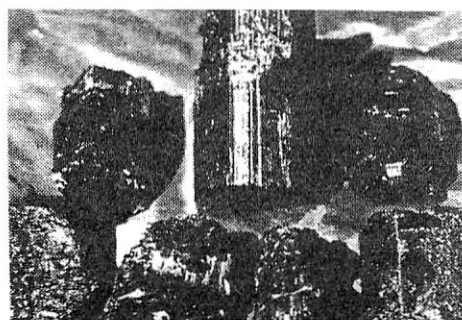
昭和51年12月10日愛知県環境保全地域に指定されて環境保全に努めたが、ゴルフ場の開発により露頭が失われて貴重な鉱物を見ることは出来なくなった。

地域内には、コナラ・ヤマモモ・ノダフジ・クワ・チャ・ヒサカキ・ヤマザクラなどの木本が生育している。草本では、ヒヨドリバナ・アキノタムラソウ・アキノノゲシ・ツワブキ・ノコンギク・コマツヨイギサ・ヤマハッカのほか、スミレ・キランソウ・トウカイタンポポなどの普通の植物が見られる。環境保全地域内にも、マツムシソウ・センブリ・リンドウ・オミナエシなどが自生していたが、今は残念ながら全く見られなくなった。

昆虫類ではアゲハの仲間が意外に多く、秋にはアサギマダラの優雅な姿が見られる。



自然環境保全地域を示す立標



青鳥山の電気石

(横山良哲著 鉱物・化石ガイドより)

理事会記録 2005.10.30 (日) 2:30～ 6:00

於なごやボランティア・NPOセンター 集会室
 中西正 鬼頭弘 松尾初 石田晴子 大谷敏和
 近藤記巳子 齋竹善行 佐藤国彦 堀田守
 山田博一 吉川洋行 滝田久憲 村上和彦
 降幡光宏 三田孝 星野芳彦
 議長 中西正 記録 近藤記巳子

◆議題

0. 報告：スタンプラリーを終えて
0. フォローアップ研修 (来年 11 月開催予定)
1. 25 周年記念事業について

◆チラシ (案) について

誰でも参加しやすいように、入場無料の表示その他文面を手直しの必要あり。→ 連絡 (星野)
 広報担当者 (巾) は、至急印刷 (グリーン色の用紙で 2,100 枚) をして、各支部・県に郵送をする。
 期日は 11 月 3 日までとする。(広報が大幅に遅れているので、急ぐ必要あり。)

◆当日の細案・タイムスケジュール及び担当者

9:30 役員全員集合 → 垂れ幕・パネル・機材点検など各種準備

10:15 受付開始 (大谷)

10:30 新・指導員歓迎会&交流会

歓迎挨拶 (中西会長)

10:35 「私の (自然の) コレクション」にまつわるエピソードの紹介をしながら、自然への想いを語ってもらう。

例：世界のマツボックリ・漂着物コレクション等々。

10:55 終了の挨拶 (副会長?)

12:40 受付開始 (滝田及び名古屋支部会員)

13:00 開演 (司会：近藤)

主催者挨拶 (中西会長)

スタンプラリーについて発表

13:10 講師紹介 (近藤)

基調講演 (柴田隆俊氏) 資料は A4 1 枚く裏表使用> 送付先? 星野

スライド操作 (吉川)・証明 (山田)・質疑

応答マイク (三田)

14:45～15:00 休憩

15:00 パネル・ディスカッション (進行：星野)

事例発表 (各 10 分) 平井・鬼頭・梶野・

松尾 → データーを事前に担当 (吉川)

まで連絡

助言者 (柴田氏) 質疑応答マイク (三田)

16:25 閉会の挨拶 (松尾)

16:30 終了 終了後は全員で撤収を行う

親睦会 (堀田)：会場? 会費?

2. 来年度計画 (大きな企画ものを日程とともに検討) 各担当者は、次回までに来年度事業計画・予算などを提出

3. 年会費についての検討

・郵送費・印刷費など経費節減の努力を重ねて運営を行っている。

・会のルールに則って会計処理が行われ会計監も行い、ガラス張り状態。

・機関紙・研修・観察会など現状を維持し運営するためには、年会費の値下げは不可能。

4. その他

・ダンゴムシ・陸貝調査の締め切りを 11 月末とするので、各支部に報告提出を依頼したい。

**■自然観察指導員講習会に協力**

10 月 8・9・10 日の 3 日間にわたって、自然観察指導員の養成を目的とした自然観察指導員講習会が岡崎市の桑谷山荘及びその周辺のフィールドを会場に開催されました。(詳細 P9・10)

11 月 23 日の 25 周年記念事業当日には、新指導員歓迎会も行います。さまざまな新会員との出会い・交流を通して親交を深めましょう。

新指導員には、協議会・各支部での活躍を期待したいですね。

■ ML [自然観察] に登録を!

愛知県自然観察指導員連絡協議会では、会員の齋竹善行さんがメーリングリスト[自然観察]を立ち上げ、みなさんの情報交換の場を提供していただいています。

生物暦を中心に、自然についてのさまざまな情報提供・話題提供がされています。

この秋、新たに協議会に加入された方、またメールデビューをされた方、この機会に是非登録をどうぞ。希望の方は、齋竹さんの下記アドレスに連絡ください。

BZA03620@nifty.ne.jp

尚、この ML は協議会の活性化を目的に、齋竹さんが自主的に管理・運営されているものです。マナーを守って参加ください。

■連絡先などの変更は早めに

転居・婚姻などによる住所・氏名などの変更は速やかに事務局までご連絡ください。

(事務局：近藤)

行事予定

25周年記念事業「アウトドアの安全講座」

開催日時	場 所	企画・内容
11 月 23 日 (水・祝) PM 1:00～4:30	なごやボランティア・ NPO センター 第1会議室 (伏見ライフプラザ 12 階)	基調講演「自然のなかの危険とどうつきあうか」 (財)日本自然保護協会顧問 柴田 敏隆氏
		「あなたならどうする？野外での危険と安全」 事例発表・ディスカッション等
		各支部のパネル展示(会場ロビーにて)
同日 AM10:30～12:00	同上	新指導員歓迎の研修会&交流会

◆上記催事に参加希望の会員は、会場設定の都合がありますのでいずれも事前連絡をお願いします。

連絡は、研修担当：大谷まで TEL(0572)23-6907 E-mail: kokokei@nifty.com

◎各支部（5支部）のHPは、「観察会等の情報満載！」です。

尾張支部 HP <http://www006.upp.so-net.ne.jp/symbio21/>

名古屋支部 HP http://cecile.gr.jp/nagoya_sizen/index.htm

知多支部 HP <http://www.japan-net.ne.jp/~chita-k/>

東三河支部 HP <http://www5c.biglobe.ne.jp/~kajino/>

西三河支部 HP <http://www.mita.2y.net/nature/nishimikawa/index.html>

編集後記

編集委員のひとり、稲生和久さんが都合により、本号の編集をもって降板することになりました。ありがとうございました。降幡知多支部長と稲生さんの推薦により、永田孝さん（知多支部）を編集委員に迎えることができました。永田さんは、秋に加入された新人さんで、多彩な趣味を持ってみえます。おいおいそんなお話しも聞くことができるでしょう。協議会・編集部に新風を吹き込んでくださることと、期待しています。どうぞよろしく願います。（近藤）

表紙絵：「しぜんを壊したらもったいないがね」

岩沙 雅代

編集スタッフ：稲生 和久 岩沙 雅代

近藤 記巳子 齋竹 善行 永田 孝 古川 俊江

苅川 真弓 松尾 初 横井 邦子

◎みなさまのご意見・ご感想など原稿をお寄せください。

尚、原稿は内容を変えない程度に加筆・修正することがあります。あらかじめご了承ください。

協議会ニュース編集部

〒445-0863

西尾市葵町4-4 苅川 真弓

愛知県自然観察指導員連絡協議会 事務局

〒457-0006 愛知県名古屋市南区鳥栖2-6-17 桜本町 CH101

近藤 記巳子 Tel/Fax 052-822-7460